

松戸市立博物館展示リニューアル懇談会・展示リニューアル検討会の報告

(総合展示室・主題展示室・こどもミュージアムのリニューアル予定と進捗)

1 業務委託

① 令和6年度：「博物館展示計画策定業務委託」

今年度7月中にプロポーザル～契約

<今後の予定>

・令和7年度：「博物館展示基本設計・実施設計業務委託」

・令和8年度以降：展示リニューアル工事

2 こどもミュージアム → 資料Ⅰ

① 令和元・4年度の2回にわたり企画展「こどもミュージアム」を実施し、調査・情報収集と評価を重ね、今年度『「こどもミュージアム」展示開発に向けた制作途中報告書』（資料Ⅰ）に結実した。

② 令和6年度は『松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画／別冊 こどもミュージアム基本計画編』および上記『報告書』の具体化に着手する作業。

3 総合展示室・主題展示室 → 資料Ⅱ・Ⅲ

① A展示検討会（学芸員・館長／原則毎週火曜日）とB「松戸市立博物館展示懇談会」（外部委員6名・館長／各委員を3回招聘）による調査・検討・助言・計画策定作業を、令和5～6年度に実施中。

② 令和5年度最後のB「懇談会」（令和6年3月29日）提示した展示の理念と方向性（『松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画』を抜粋・集成・検討し、再言語化したもの。以下「 」にゴシック体で引用）

「多岐に亘る調査を背景とした研究成果に依拠しつつ、インクルーシブの観点に立った展示空間・展示解説系を用意することで、市民の自己学習と交流の場を提供する。

総合展示室では、時系列展示の継承により、松戸三万年の歴史・文化と人類史・列島史との接点および学校教育との接続を意識し、また時代相・地域相の変化や特徴を際立たせるよう努める。

主題展示室は、新たなテーマ設定と構成を案出する。総合展示室との相互補完性を増進させ、同時に宣伝機能なども随伴させる。

いずれの展示空間にも可変性をもたせることで、ニーズに柔軟に対応するとともに、飽きの来ない展示を目指し、館外諸施設との連携も相俟って市内外のリピーター増を目論む。また児童・生徒に向けては、こどもミュージアムとの連携を前提に、学齢や人数に応じたプログラムを用意し、展示の効率的・効果的な理解へと結びつける。」

- ③ リニューアルに当たっての総合展示室の意図・構成の案（抜粋／資料Ⅱ）、および総合展示室全体に通底する事柄の案（資料Ⅲ）の両面から検討・議論・意見集約中。
- ④ 総合展示室与件（プロポーザル応募社に提示）は以下の４点。1. 資料の展示可能面積を拡大し、また展示の可変性を獲得する。2. 時系列展示（旧石器～近現代）とする。3. 総合展示室に至るスロープ途中の空間も活用する。4. インクルーシブルな視点から展示空間や解説系を構成する。
- ⑤ 主題展示室与件（プロポーザル応募社に提示）は以下の４点。1. 現仮設壁に準拠した４区画を維持するが、壁自体の改修を妨げるものではない。2. 歴史学・考古学・民俗学および多目的の４種の展示室を設ける。3. 各室とも可変性を獲得するが、とくに多目的室では強く意識する。4. インクルーシブルな視点から展示空間や解説系を構成する。

4. まとめ

令和６年度４～７月期における「Ａ 展示検討会」は、以下の３点に注力した。

★総合展示室と主題展示室に関する学芸員各自の見解提示と議論（資料Ⅲ等）

★こどもミュージアムの整理（資料Ⅰおよび体験展示個々の目的・成果・課題・方向性等の検討・整理）

★博物館展示計画策定業務委託関係書類の調整・作成

中世

当市所在・出土・関連各資料の時期的偏差と研究上の制約により、戦国後期(16世紀)を中心に扱う。小金城・根木内城と高城氏、および本土寺[過去帳]を叙述の二本柱に据えるが、その他周辺資料も交えることで地域史への言及に努め、また列島史との関連付けも行う。

I (仮)小金城と高城氏	項目名	【上段】おもな展示資料(既存／新規) 【下段】展示意図	備 考
☆歴史的要素:千葉氏・原氏・高城氏の歴史と相互の関係性。／「領」主の役割(对被官・村落・寺社)。／ 両城の機能と役割／非常時の実相(永禄期)。／ 近世的体制と町村への移行。 ☆地理的要素:西部下総台地上に大規模な縄張を展開して防禦性・攻撃性を強化。／ 小金城は宿・陸路・河川支配を意図し、根木内城もプレ水戸道中が膝下又は城内を通過等流通支配の意図明確。	①千葉氏・原氏・高城氏と下総国	無／同左[解説パネル新規製作]	
	発端として鎌倉期以来の千葉氏、戦国期に小金領を形成する原氏、原氏を継承した高城氏の関係を解説。		
	②小金城と小金領	本土寺文書、吉野家文書／同左、原胤長書状写(内藤)、北条氏人数覚書(毛利)	文書レプリカ展示
	領の形成(一般論・推定)・継承から、被官・村・寺社との関係性を軍事を意識しつつ解説。		
	③-1小金城・根木内城	小金城跡出土資料／同左、根木内城跡出土資料	模型・両城位置付図新規製作／過去帳検出合戦記事一覧表はここでも？
	両城の立地、規模、役割等を出土資料を用いて解説。とくに小金城は政治・流通の中心であることを強調。		
	③-2小金城・根木内城	無／同左[解説パネル・映像・模型等新規製作]	
	小金城全体模型と両城関係図・領周辺図(以上新規)等で③-1を補完。		
	④永禄の危機	無／西原文書1～3、豊前氏古文書2	文書レプリカ展示
	国府台合戦、臼井城合戦、松戸・市川襲撃文書を通じて、列島の大状況と地域の具体的な戦禍への理解を図る。		
	⑤戦国の終焉	豊臣秀吉制札(万満寺)／同左、高城家黒印状(吉野)、高城胤則書状(染谷)、安蒜家棟札	文書レプリカ展示
	武家領主権力が集権化される大状況と高城氏の滅亡、被官層の分解・帰農を描き、近世へ繋げる。		
II (仮)戦国人のあしあと	項目名	【上段】おもな展示資料(既存／新規) 【下段】展示意図	備 考
☆歴史的要素:稀有な人名簿の有する価値と地域史への貢献を示すことで事象理解の深化に加えて資料活用 の具体例や人権問題へも意識を向けさせる。／ その他資料も交え、市域の戦国人の暮らしと心の一端を描く。／ 近世との接続には配慮しない。 ☆地理的要素:鎌倉新仏教普及の初期事例(本土寺・万満寺)と町場志向／ 本土寺参道＝原初的な水戸道中明示カ	①市域の寺院	無／[解説パネル新規製作]	創建年代等は寺伝に配慮／①はラストへ？
	市域のおもな中世宗教資料を紹介。本土寺・万満寺・大勝院・広徳寺・慶林寺等は高城氏とも関連付け。		
	②-1本土寺と過去帳	過去帳3／同左	中世町村(板碑出土地等配慮)・職人一覧・猿楽師一覧・領内戦争の図表又は映像
	卓越した有用価値、歴史研究への影響を人権への配慮も伴いつつ解説。本土寺史も言及。		
	②-2町と村・職人・犯罪と戦争	無／[解説パネル・映像等新規製作]	
	図版、映像で抽出し得る情報を最大限に活用。中世の町・村、職人とりわけ猿楽師、戦争など。		
	③板碑と現世・来世	三尊・庚申・本土寺出土板碑、常滑壺／同左、骨蔵器転用四耳壺、六道銭	
	もっとも身近な中世文化財の意味合い・位置付けと、その他宗教資料を紹介し、中世人の信仰の一端を解説。		

近世

江戸時代を前・中・後期で展示。戦国期との接続を考え前期は小金町と小金宿を、中期は近世村の概要・支配体制・松戸に特徴的な税負担・民間信仰等により市域の村落の特徴を明らかにする。また台地域で行われた将軍家の大イベント小金原御鹿狩が開発にも貢献し、地域にユニークな資料を残した。後期は松戸宿が流通の場として小金をこえる隆盛を誇り、中核の町となったことを明示して近代に繋げる。

I（仮）江戸時代はじめの松戸	項目名	【上段】おもな展示資料(既存／新規) 【下段】展示意図	備 考
☆歴史的要素： 小金領の中心であった小金は近世にも引き続き宿場町として繁栄、政治的には水戸藩に接近／小金牧・佐倉牧を支配した野馬奉行綿貫氏は小金町に拠点を持ち、牧の実務は牧士が担当。	①-1 台地から江戸川流域へ	無／坂川関係資料	
	幕府成立後の17世紀には、台から江戸川流域の下谷地域へと人間が移動し、新田村が成立したことを資料でしめす。		
☆地理的要素： 耕地開発の具体像と地理環境との関係。／ 台地周縁部と水戸道中のルートの関係。／ 小金牧が下総台地上に設定されることの意味。	①-2 小金宿	小金宿町割図[土浦道中絵図]／小金宿関連助郷資料(含一月寺)	
	江戸幕府が設定した正式な宿場として生まれ変わり、また水戸藩との関係を深めたことを指摘。		
	①-3 水戸道中	水戸徳川家大名行列／未定	
	市域の台地の周辺部を通り、江戸と水戸を結ぶ水戸道の機能や役割を説明する。		
	②-1 小金牧と野馬奉行綿貫氏	鐙／鐙ほか未定	
	野馬奉行綿貫氏は小金宿に定住し、当初小金牧全域を管理。享保改革で松戸市域にかかる中野牧が金ヶ作陣屋支配へ。		
	②-2 日本在来馬	[パネル]／[木曾馬関係写真]	
	小金牧では小型の日本在来馬が放牧された。改良のため、18世紀初頭には外国馬も導入されている。		
	②-3 野馬奉行と牧士	野馬捕りの献額、成田名所図会／鉄砲	
	小金五牧の一つ・中野牧は、享保改革以降は金ヶ作陣屋が支配し、実務は牧士が担当した。		

資料Ⅲ 総合展示室 「共通項目」案および「通時的事象」案

	タイトル／テーマ	旧石器・縄文	弥生・古墳・古代	中 世	近 世	近現代・民俗
共通項目	風土 (climate,environment)					
	台地・谷津・低地の三地形に規定された、環境・集落立地・生活・生業等の諸様態	◇氷期／後氷期の生態環境に適応した遊動的／定着的な居住戦略 ◇石材資源環境に適応した石器製作技術の開発 ◇縄文海進へ適応(幸田貝塚) ◇生態環境への人為的関与(特定樹種の管理・栽培)	◇人口(遺跡数)の減少・停滞 ◇農耕文化(弥生土器・金属器)の波及 ◇自然資源の活用(立出し遺跡のヒシ)	◇谷津田の定着と樹林の畑地化 ◇鎌倉新仏教普及の初期事例と町場 ◇下総台地を利用した大規模な縄張の小金城は、宿・陸路・河川支配をも意図	◇街道：下谷～谷津～下総台地周辺部を通る水戸道中、鮮魚街道 ◇開発：近世初期下谷の新田化/中期の台開発/小金牧の成立と周辺部の林畑化/明治初期の開墾 ◇巨大都市との関係：江戸東京を最大商圏とする薪炭・果樹・生鮮野菜需要 ◇植生の変化(広葉樹＜松？)	◇低地(下谷)・谷津・台地(台)の地形、環境に適応した農村生活の継続 ◇(上掲の)伝統的生活から現代的生活への転換点としての戦後宅地開発(首都圏整備法、先駆けの常盤平団地、農地の転用等)
通時的事象	① 交流					
	ヒト・モノ・情報の移動	◇遠隔地からの石材資源獲得 ◇中期の異系統土器：西関東・中部系(勝坂・連弧文)と東関東系(阿玉台)の混在～東西関東の結節点 ◇縄文後期中葉以降の東北方面との間欠的な交渉(土器・土製品)	◇土器や埴輪等に見る北関東・南関東地域との交差点～北関東的要素(稔台遺跡Ⅰ群、栗山古墳群の埴輪)と南関東的要素(宮ノ台式、諏訪原遺跡Ⅲ群の住居形態) ◇朝鮮半島系遺構遺物(行人台遺跡の鑄造鉄斧、カマド) ◇広範な政治機構への編入(古墳造営：河原塚古墳群) ◇下総国府隣接地(小野遺跡)／官道(八ヶ崎貝の花遺跡)	◇鎌倉街道の渡河点「松渡」と葛東郡 ◇政治・流通の中心地小金の宿・城・領	◇舟運(江戸川)と陸路(水戸街道・鮮魚街道など)の結節点 ◇2つの宿(小金宿をしのぐ松戸宿の拡大) ◇江戸大消費地江戸への物資供給(冬季の鮮魚、薪炭・果樹) ◇水戸藩との関係(鷹場設定、小金宿と水戸藩の関係) ◇下谷＝近隣村落の飛び地/台＝遠隔地からの入植	◇交通網の発展にともなうヒトとモノの移動の活発化(通運丸就航、常磐線開通、葛飾橋架橋等) ◇“帝都近郊”的性格の増大(人口の増加、松戸駅周辺の宅地化、軍事施設の建設等)
	② 水					
	水利用の変遷	◇水産資源の利用(食料、骨角貝製品の素材) ◇舟と河川交通 ◇水辺の生活(堅果類加工等)	◇房州石と河海交通 ◇旧江戸川(太日川)流域のまとめ(葛飾郡)	◇領・城と水利(境界、河川を意識した城郭分布、防禦性等)	◇江戸川直線化の影響(河岸・舟運発達) ◇坂川に流れ込む小規模河川 ◇台地周縁部のため池と弁財天 ◇村共同の坂川工事・日常的メンテナンス	◇下谷の水田稲作、水路での田船の使用、川漁、水害への備え(水塚、坂川普通水利組合)